

医療安全情報 レポート

Vol.25

働くみんなの医療安全 「高齢者や認知症患者の誤飲・管理に気をつけよう！」

今号と次号では、「高齢者や認知症患者の誤飲に気をつけよう！」をテーマに皆さんにお伝えしていきます。高齢者の誤飲のなかでは、義歯や、食物の誤飲が多く報告されています。今号は、義歯の誤飲について2つの事例から早期発見のポイントを考えてみましょう。

事例1

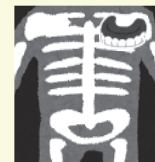
入院中の認知症の患者の家族から、患者が激しくむせたので、入れ歯（下顎の総義歯）を飲み込んだのではないかと看護師に訴えがあった。しかし、看護師は入れ歯ケースに入っていると思ひ込み、家族へその旨を話し、ケースの中身を確認せず、まさか総義歯を飲み込むなんてと思い、痰吸引を行なったが、少量の痰しか引けなかった。その後、肺雑音、喘鳴がひどくなり、呼吸困難を訴え、諸検査の結果、心不全増強と診断され、他科へ転棟することになった。その際、入れ歯ケースに上顎の総義歯しか入っていないことが判明。

一週間前のエックス線写真を確認したところ、咽頭下部（喉頭蓋の奥の食道入口付近）に下顎の総義歯らしい影が写っていた。



事例2

老人ホームに入所中の女性、夜間、発熱の症状があり、家族に付き添われ医療機関受診した。胸部エックス線検査後、発熱の治療として点滴を実施し、その日のうちに帰された。しかし、老人ホームの職員が、女性の義歯がなくなっていることに気づき翌日、家族を通して、医療機関に連絡後救急搬送され診察の結果、手術で胃から義歯を取り出した。夜間受診した際のエックス線画像には、食道部分に義歯らしい影が写っていた。



義歯誤飲発見ポイント！



* 認知症の患者さんに対応する際は、通常では考えられないことも起きうると考えたほうがよい。

- 義歯紛失時、探しても見つからない時には、早めに医師へ報告し、エックス線写真にて確認する。
- 患者さんが、急に咳き込みが多くなった、流涎が多くなった、呼吸状態が悪化した時には、口腔内をチェックする。
- 義歯装着時の不具合、義歯の形態や破損の有無を確認する。
- 普段から、患者さんの歯の状況と義歯の保管管理を多職種で情報共有を行うことが発見の早道になる。

（総入れ歯だからと安心はできません!! 日頃から確認しておきましょう。）

義歯紛失時には、「まさか!?’ではなく、「誤飲したかも!」と疑うことが大切です。